Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka 2015-03-16

APM news 122

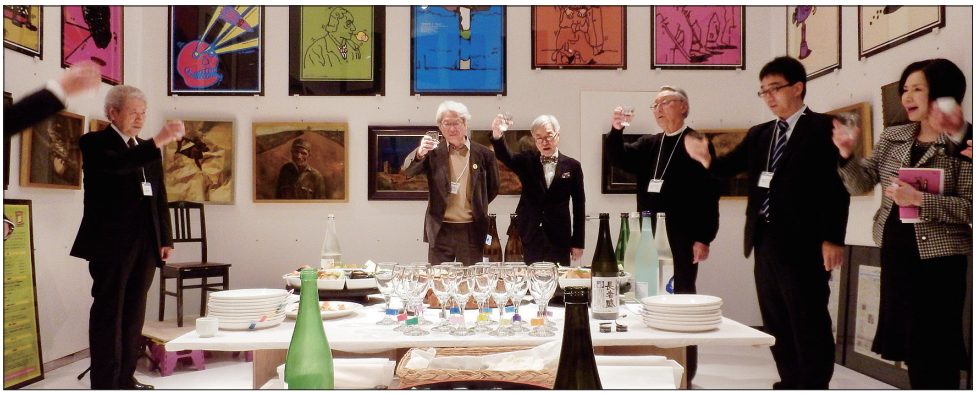
秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館（旧北越銀行宮内支店）

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第2回 一流美術館大学

12月4日（木）pm6：00～8:00／秋山孝ポスター美術館長岡・蔵／参加者：20名（ゲスト、スタッフ含む）
ゲスト: 椿 智彦(新潟日報社・記者)、澤田 雅浩(長岡造形大学・准教授）／演奏: 畠山 徳雄(畠山徳雄ギター教室)



一流美術館大学とは、少々尊大な言い方かもしれない。しかし、APM をサポートしてくださる方々をご招待し、上質なトーク、サービス、料理、音楽でおもてなしするには、己を叱咤するためにも敢えて「一流」が必要だと考えた。一流の方々が集い、ともに議論できる場として秋山孝ポスター美術館長岡(APM)が活用されればと願う。

今回ゲストとしてお招きしたのは、新潟日報長岡支社の報道部記者・椿智彦氏と、長岡造形大学の建築環境デザイン学科准教授・澤田雅浩氏の2名である。椿記者は新潟日報夕刊の連載「人ものがたり~イラストの力信じて~」で秋山館長の半生を書き上げた。秋山館長の出生から美術に興味を持ったきっかけ、これまで取り組んできたプロジェクトなどについて取材し、12回の連載に仕上げた。その取材時間は総計60時間にも及び、その日の取材が終わると、椿記者、秋山館長共に精根尽き果てる状態だったという。その甲斐あって12回という短い連載にも関わらず、秋山館長の仕事へ注ぐ情熱や信念、人生がしっかりと詰まった、内容の濃い記事であった。澤田准教授は、長岡造形大学で都市計画、都市防災を専門に研究している。新潟県長岡市は2004年に中越地震を経験しており、澤田准教授は被災状況の調査を行うだけでなく、地震の復興支援や今後の防災のあり方に関して研究・実践を行っている。秋山館長は、大学の役割とは正しい情報を次世代に伝えていくことであるとし、澤田准教授の地道に積み上げた研究を賞賛した。また、この日もう一人のゲストとして、畠山徳雄ギター教室の畠山徳雄氏がいる。秋山館長の思い出の曲「アルハンブラの思い出」などを演奏していただき、一流美術館大学の場が一層華やかになった。

秋山館長はこの日、ご出席いただいた皆様に 2015年度のAPM新事業「日本ブックデザイン賞」について伝えた。日本ブックデザイン賞は、もともと東京装画賞の流れを汲んでおり、装丁・装画に焦点をあてたコンペティションである。本の内容を図像と文字で視覚的に伝える装丁・装画。昨今は本のデジタル化が進み、国立国会図書館においてもデジタル化が進められる一方で、価値のある本は本自体を保存しようという動きが出てきており、書籍にとって狭間の時代となっている。情報としての本だけでなく、読者が手に取りたくなるきっかけを作る装丁・装画を正しく評価し、才能を発掘しようというのが「日本ブックデザイン賞」である。

今回一流美術館大学にご出席くださった皆様は、どなたもそれぞれの分野で活躍されている方々である。中締めのご挨拶をしてくださった渡辺千雅様も、マイスキップという地域情報誌を発行し、長岡フィルムコミッション会長や長岡花火副実行委員長を務めるなど、地域活性化のため精力的に活躍されている。そのような方々が集まり、アイディアを交換し、次の活動に活かしていく。APM がその拠点となり、一流美術館大学が 3 回、4 回と継続していくことが重要である。(APM 職員・森山)